
巫女伝

梓月

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

巫女伝

【Nコード】

N7313P

【作者名】

梓月

【あらすじ】

争い多き戦国の世に生まれた巫女、梓。
梓の悲しく切ない物語です。

戦国の巫女

私は梓。^{あすな}戦国の世に生きる、16の女だ。

・・・そして、巫女でもある。

私は巫女としての誇りがある。

3つの契りを破ったこともない。

1つ目は、巫女としてふるまうこと。

2つ目は神に一生をささげること。

3つ目は・・・、恋をしないこと。

私は巫女として、独り立ちするとき、

恋などしないと心に誓った。

私は巫女として生まれてきたのだから・・・。

この一生を神に捧げることの辛さを知っている。

それでもこの道を選んだ。

これが私の運命^{さだめ}なら、やり遂げてみせると思った

戦国の巫女（後書き）

こんにちは、梓月です。

この話の主人公、梓。

この名前は私の名前から取ってつけました。
梓という木は、聖なる木だそうです。

連載小説なので、まだづづきます。

小難しい話ですが、第3話ぐらいから出来事になるので、お楽しみに

悲運の死

私は梓。^{あすひ}戦国の世に生きる、16の女だ。
そして、巫女でもある。

あの日から、私の運命は大きく変わった。

私は修行として、遠い村まで出かけた。

そこには1人の巫女がいた。私のような巫女では

ない。呪を専門にした巫女。親しくなり、家に泊めて

もらったが、あの巫女は私の権力を狙っていた

ようで、私に呪いをかけた。私はそのせいで、

誰かに恋をした時、悲運の死をとげる。

恋など市しないと誓った私にそんな呪はきかない。

それに、今頃、死など恐れない。

私は、誇り高き巫女。恋などするぐらいなら

死ぬほうがまだまし。

そう思いながら、修行に精を出すのであった。

悲運の死（後書き）

こんにちは、梓月です。

やはり、難しい話になってしまいました。

次は、出来事になるのでご安心を（笑）
では、お楽しみに！

出逢い

私は梓。戦国の世に生きる16の女だ。

そして、巫女でもある。

男に恋をしてはいけない。そんな運命を背負った

私だが、苦しくもない。恋などしないと心に誓った。
今頃破れるはずがない。

私は弓が得意だ。弓ならば誰にも負けない。それぐらいの

自信がある。私は大きな木を的にして、今日も弓の練習をしていた。

そんなとき

「お前が巫女の梓か」

と、後ろから声が聞こえてきた。ずいぶんと無礼な態度と思いながらも返事をする。

「私が梓だ。何か用か？」

後ろを振り返った。後ろにいたのは一人の男だった。

私が治める村に住んでいる。この男は、村1番の強さを持っているとのうわさだが、村1番の貧乏人。

「なら、村をよこしな。じゃないと痛い目見るぜ！」

大声で叫ぶ。私は、この男の言いたいことがよくわからなかった。男は剣を構える。

「痛い目を見るのはお前だ。早く立ち去れ」

私はそう忠告した。だが、男は笑い、襲いかかってきた。私はため息をつく。私にかなう奴などいない。

この弓がある限り。

私は背中のかごから取り出した5本の矢をはなつ。

矢は私の狙い通り、着物ごと木に突き刺さる。

「くそ！」

男は悔しそうにこちらを見る。じたばたと暴れるが、

矢は外れない。

「お前、馬鹿なことはやめろ。次はないぞ」

私は男に聞こえるように言い、この場を立ち去った。

出逢い（後書き）

こんにちは、梓月です。

どうでしたか？

主人公、梓の外見を紹介したいと思います。

梓は腰までのびる、黒く、美しい髪を持ち主です。

普段は後ろで束ねています。本人曰く、髪をほどいた

姿に自信がない、ということです。

顔は、見た目は少し怖いふいんきですが

とても優しい人です（笑）

すごい美人という設定です。

まあ、私のイメージなので、

話に合うか分りませんが

これから梓をよろしくお願いします。

肩の傷と負け

私は梓。戦国に生きる16の女だ。

そして、巫女でもある。

あの男は毎日のように来た。同じ言葉を

何回も叫ぶ。あの日が繰り返されているようだった。

なぜ、人は権力に頼るのだろう。

なぜ、人は悪に心を奪われるのだろう。

私にはわからない。

今日は隣の村までお払いに行ってきた。

この世では、魔物が徘徊する。物に取りつく者もいて

厄介だ。そんなものを退治するのも巫女の仕事であった。

今回の相手は少し強かった。坪から出てくる邪悪な

魔物に肩を切られ、血が真つ白な巫女装束に

しみこむ。なんとか倒し、その村人に傷の手当てをしてもらった。

私は痛む肩を押さえ、私の村まで帰った。

私はいつもの森に行った。もちろん弓をもって。

大樹にもたれかかり、ゆっくりとしていた。

木と木の間から光が差し込む。そんな光景に

うつとりしていると、いつもの声が聞こえてきた。

「今度こそやってやる。早く弓を構えな！」

私は立ち上がった。弓を取り、男のほうを見る。

男はいつもの顔でこちらを見ていた。

「お前も懲りない奴だな」

私は余裕の表情を浮かべる。だが、息は荒く

立つこともつらい状態だった。

私は震える腕で狙いをさだめ、矢を放とうとした。

その時、肩に強烈な痛みが走る。

「うつ・・・」

私は弓を持ったまま草原に倒れた。

「私の・・・負けだ・・・」

あの男に聞こえないぐらい、小さな声で呟いた。

肩の傷と負け（後書き）

こんにちは、梓月です。どうでしたか？

今回は、梓の細かい情報を載せたいと思います。

身長 156cm

体重 秘密

生年月日 3月2日

特技 弓

好きなもの 花

もの静かなイメージの梓ですが
女の子らしいところがあります。
女の子としての梓もみてくださいね。
それでは、次回をお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7313p/>

巫女伝

2011年10月8日10時42分発行